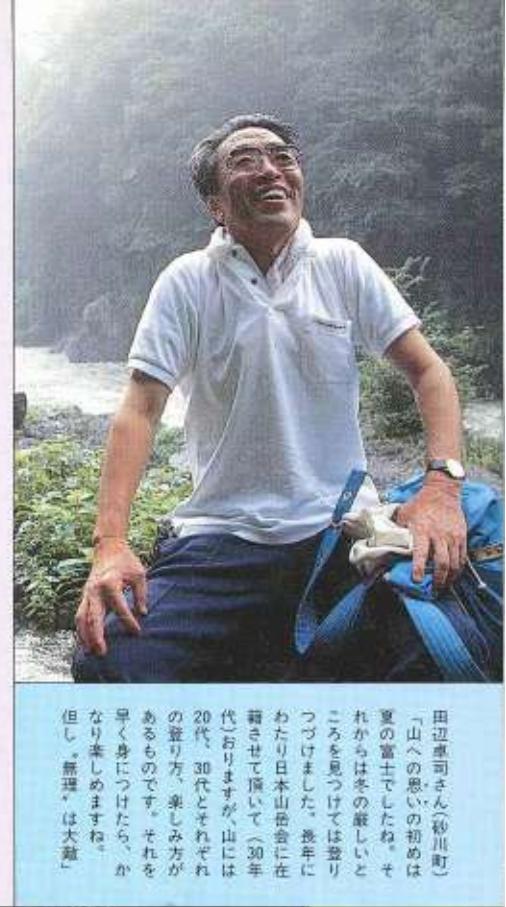
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
9
〈EKUTEBIAN-VOL.6. SEPTEMBER. 1989-EKUTEBIAN〉
まい　あーと
■シルクスクリーン
by 宮沢 淳

潑溂人生在此処
はつらつじんせいここにあり

SPORTS SENIORS IN TACHIKAWA CITY

田辺卓司さん（砂川町）
「山への思いの初めは夏の富士でしたね。それからは冬の厳しいところを見つけては登りつづけました。長年にわたり日本山岳会に在籍させて頂いて（30年代）おりますが、山には20代、30代とそれぞれの登り方、楽しみ方があるものです。それを早く身につけたら、かなり楽しめますね。但し"無理"は大敵」

諸江可津子さん（柴崎町）
「長年日本舞踊をやってますけど通ずるものがありますね。"きまり正しいんです。"弓も矢を射るまでの作法の一つ一つに意味があってそれをするうち段々心が落ち着いて一点に集中していく。"射"の前の緊張感と射た後の爽快感。やめられませんね、もう。先祖は武士で家に古い弓がありますけど縁でしょうか」

丹波三郎さん（富士見町）
「ダンスは20代で始めたんだけど、戦争で出来なくなってそれきりに。仕事を離れ地域活動をするようになって始めたのはやっぱりダンスだった」。"つい出てしまうという昔のステップ"。いいじゃないですか、若き日の浪漫が香って。

竹内寿恵子さん（錦町）
「全くした事のないダンスでしたけど、75才の時、ただ運動するよりはいいんじゃないかな、と。"華やぎ"というか夢がありますものね」

土井鼎さん（高松町）
「二十歳のころ、家でサラブレッドを飼ってまして、そのためかいまだ馬の背に跨がってます。動物とのふれあいが持てる素晴しいスポーツです。気持がスッと通った時の走りは、たまらなく爽快ですよ」

伊藤万里子さん（泉町）
「医師だった兄がテニスのコーチに転職してしまいまして、私の主人の減量対策にテニスを勧めたんです。夫婦で始めたのが15年前、私も今ではとりつかれてしまって」。甥ごさんもプロ。"やはり血"か。

能城初太郎さん（栄町）
「自転車とのつきあいはもう30年になる。今の人は目的地まで車で行ったりするけど、僕は最初から自転車で行くよ。関東一円、西国札所、あちこち一人で走った。今でも片道100km位なら平気だね」

誰でも手軽に私の書斎

本ばなれが目立つと、よく云われるが、書籍の重要性は古今かわるところがないはず。ここ立川の市立図書館でも「一人でも多くの人に良書を！」と、懸命の努力。読書の秋を間近かにして一度、図書館を訪れてみては。

図書館長 加賀司郎さん

建設畑を長年歩いてきまして、ここには4月に来たばかりなんです。外にいた時は、極端ではありますが本の出し入れ程度かと思っていましたが、これが大きな間違いでした。多くの方に出来る限りの資料を提供し、時間のサービスを常に心がけていかなければその役割を果さないわけです。各地域に設置された図書館によって、だれでもが気軽に本に触れられるように、また、カバー出来ない地区には移動図書館が伺うようにしてます。生活に密着したいまの状態から、具体的になっている中央図書館が出来てきますと、もっと幅広い分野への対応が出来てきます。手軽に立ち寄れる場になれば……。

奉仕担当 里子和三さん

ご存じの様に立川には、8ヶ所に図書館がありますが、地域ごとの運営や、立川全体における図書館運営のあり方などを考えるのが主な役割です。借りて頂くためのPRも、講演会・映画上映などと合わせて行っています。図書館の良い利用法を積極的に表現しているのですが、まだまだ知られていない部分がありちょっと残念です。親しまれる図書館にと、立川以外の図書館に、借りる立場として時折り立ち寄るのですが、それぞれの地域ごとに個性があふれ、改めて本は生きているんだなあと思います。本そのものを貸し出すのも大切ですが、利用される方とのふれあいも同じように大切ですね。

ハンディキャップサービス担当 神山昭美さん

ハンディキャップサービスというと特殊な分野で特殊なスタッフがやっていると思われがちですが違うんです。ハンディを持った方たちが一般の方と同じように図書館を利用するためのごく当り前のサービスなんです。ですから遠慮せずどんどん意見や注文を出してほしいですね。その立場でなければ気づけない"不自由"はたくさんあると思いますから。現在、点字本、対面朗読、宅配サービス等、行っていますが、まだまだこれからですね。今度できる中央図書館には、ハンディを持った方が一人で来て、一般の方と同じフロアで、一人で利用できる。施設も内容も充実したものを、と思っているんです。

児童サービス担当 新海紀代美さん

子供の場合、本や施設が整っているだけでなく、なじみの人がいるという事も大切なので、努めて声をかけています。子供たちに本を読む楽しさを伝えたい。それには自分が感動しなければ、ね。日々、何をつかむか常に感覚を磨いていなければならないので緊張しますが、これがまた楽しいんです。それが伝えられた時、例えば地味だけど本当に良い本に子供が感動してくれた時などとても嬉しいですね。学校へ利用案内に行くとすぐ反応があって大勢来てくれたりしますし、もっと積極的に働きかけたいのですが…。中央図書館には子供たちが年代別にくつろいで本を楽しめる空間がぜひほしいです。

エティオピア⇔立川 連載・4 AIR MAIL えくてびあん ■エアメール■ボックス

ここエティオピアは日本以上の学歴社会です。日本の小学校～高校に当るのが1～12学年で、その上に短期大学や総合大学などがあり、その他に技術学校もあります。総合大学は2校だけで大変な難関ですが、昼間も夜間も学歴に差はないのでむしろ夜間部の方が倍率が高い様です。というのも経済的な理由で昼間働き夜、学校に通う事になるからで、年代も様々。20代、30代、と仕事が終ってから学校へ、という人がよくいます。学部については殆どが自分の意志とは無関係に学校や国が振り分けてしまい、その後の職業までも国が決めてしまうという事です。それでも仕事があるのはいい方で、ブラブラしている人も結構います。私の所属しているところは、日本的に言うならば「井戸堀り公社」。ここで働いている人は大体が12学年以上ですが、ドライバーは8学年卒のようです。昇給の為にも、仕事条件を良くする為にも上の学校へトライするのでしょうが、その門は狭く、12学年までは努力次第ですが、その上となると相当以上の努力が必要です。しかし、この制度が革命前90％近いと言われた文盲率を64％までにしたのも事実です。ところで、この国には公用語が2つあり、第一公用語はアムハラ語、第二公用語は英語です。科目としての英語の授業は1学年からですが、7学年以上は全て英語で授業が行われ、英語が出来ないと大変です。という訳で12学年以上を卒業した人は結構英語が上手です。この国で中流階級であろうとするなら少くとも12学年以上の学歴は必要でしょう。いくら日本が学歴社会とは言っても、エティオピアの"学歴絶対"のシステムには、とうてい及ぶものではないと思います。

山田辰三さん（柏町）。青年海外協力隊員としてエティオピアで活躍中。

ミス立川'89 盛夏のなか決まる

今年も例年のごとく夏、真っ只中に一陣の微風が吹いた。7月22日ウィル特設ステージで行われた"ミス立川コンテスト"である。（立川まつり実行委員会主催）在住・在勤・在学の乙女43名がその身心の美を競った。ミスに松村知子さん(21)。準に、武藤かをりさん(22)・川端麻友美さん(23)が選ばれた。趣味もゴルフ・編みものと多彩であったが、選ばれた"立川の女性"として立川のために努められることを爽やかな微笑をもってこたえていた。

立川・トピックス

日本初 "フリークライミング"が行われた

さる8月5日、日本で初めての「日本フリークライミング選手権」が国営昭和記念公園で行われた。まだ、耳に軽い感触のスポーツであるが、ヨーロッパ辺ではファッショナブルで、シティ派スポーツとして人気の高い競技。道具にたよらず、自分の手・足で僅かに出た人工石を手掛りに17mからの垂直壁を登るものである。今までは、自然の岩場を利用しての非公式競技であったが、時代とともに進化してきたスポーツである。一点に集中して登る姿は何やら、人生の様だ。

表紙は語る

まい あーと■シルクスクリーン by 宮沢 淳

鮮やかな色彩に、新鮮さを感じる作品。作者・宮沢淳さん(62)にうかがってみる。

「ひと昔が過ぎまして、ようやく"これだ"と思えてきましたね。以前は商業デザインをやっていましたので、このシルクスクリーンが体質的にマッチしまして、数多くの作品を作ってきました。近代的な色彩・形は、デザイン畑の私に新たな発想と意欲の火をつけたようで……」。今年4月から朝日カルチャーセンターに開設された、"シルクスクリーン版画入門"の講師としても活躍している宮沢さん。作品のもつ"モダンさ"が多くの方にうけているようだ。「ひと口で"モダンさ"といっても、その形・色が出てくるまでは、それはもう生みの苦しみですよ。それだけに出来上った時は、ホッとしますね。それと、見た感じより若いと言われるのもこの御蔭ですかね……」。

真如苑だより

過ぎてみると、炎天の夏もなつかしいものです。

爽やかな秋の入口にさし掛かりました。先月は都合によりましてお休みをいたしましたが、今月からまた、こころ新たに皆さまをお迎えさせていただく準備万端です。

■日時　9月15日(祝)　午後3時～5時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

?立川クイズ■

多摩の地に、八王子電燈により初めて電灯がともったのは明治28年のことですが、急速に普及したのは大正に入ってからでした。当時、電力供給は電鉄会社の大切な副業で、中にはその収入の方が多いところも。電気が貴重で高価だった時代です。多摩の電力普及に大きく貢献したのが京王電気軌道。府中の同社から立川に電気が引かれたのは大正4年の6月。さて、日給が70～80銭というその頃、5ワットの電灯1灯分の1ヶ月の電気代はいくらだったと思いますか。

①15銭　②30銭　③45銭

【8月号の答】③

府立二中（現都立立川高校）の開校は明治34年5月3日。一・二学年合わせて200人募集のところを150人で開校したとか。生徒はなかなか集まらず創立10周年の時までの卒業生は何と256人。ウソみたいな話。

漢字テスト答え

陰徳陽報

工房から

●皆さんは今年の猛暑をどのようにして乗り切ったでありましょうか。わが工房では、今夏もまたクーラーとかいう文明機具など使わずに（陰の声：買えないんだろう！）ウチワ一本で済ませました。

●加えて、南部鉄の風鈴を軒下につるしまして、風流を気取ったひと夏でした。なかなかの美鈴で、それかあらぬか今月号の文章は行間から風雅な香りがただよってくるようではありませんか。え、ただよってこない？　そんなはずないんだけどなあ、しっかりと読みなさい、シッカリとッ。●ところで、風鈴は仕舞い時が肝心だと聞いております。なるほど秋風に鳴るチリーンという音は、わびしさが先だってしまいます。●水打つ頃　青空すこし　えくてびあん。

（編集）石塚敦美　小川知子　神山清子　隅川穰　田中恵子　中村紘里　半沢正弘　原田悦子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269　積川一巳　本多修

月刊えくてびあん　第62号
平成元年九月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15
パークビューハイツ50-〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

漢字テスト㊹

空欄に一字挿入を試みよ。

▶陰徳●報

▶●存実亡

●9月14日開催●

敬老大会

ところ：市民会館

※詳しくは☎㉓2111内538

我家は3代目

老舗といい暖簾の重みという。それも3代つづけば語り尽くせない物語があろう。この街にも沈黙して静かなる物語のかずかずがそここここに隠されている。

練って包むはココロイキ

日の出屋（曙町2丁目）

初代は日野の人、出身地を屋号にした。明治39年に立川で開業。以来、戦中戦後のおよそ仕事にならなかった時代もくぐり抜けて和菓子を作って来た。幼い頃から祖母に後とりとして育てられ、ごく自然に店を継いだ3代目。今でも創業からの製法で酒まんじゅうを作る。手間をかけ心をかけて守り続ける父祖の〝味〟である。

仕込みから出来上るまで30時間かかる酒饅頭

創業時、鍛冶屋に特注した道具〝セビ〟、今の機械より便利だそうだ。

昭和5年に建てられた店舗

右から古川又喜さん、ひろ子さん

昭和38年に店を継ぐ。「甘酒で作る酒饅頭は生きてるんです。時間、気温に微妙に左右されるので目が離せない、甘酒番が要る位で旅行にもなかなか行けません」。熱っぽく語る3代目を見守るひろ子夫人。夫妻のイキはピッタリとみた。